

# 元気な企業の源は

## 組合員であり、人である

脇村委員（和歌山地方本部）



●安全について、まだ道半ばとは言い、非常に高い数値レベルの日標を達成してきたと認識している。労働災害などが止まり感があるものの、自分たちが対処対応できる事柄への成果は充分評価されていくと考える。

一方、達成目標の数値に目線が寄ってしまったというように感じる。こうなってしまうと、系統間での責任転嫁や持ちは未だ逆転している。

日々頑張る業務を遂行し、辛抱をしながら施策にも協力してきた。しかし現場の組合員は、その辛抱や協力の対価があったとの認識に至っていない。これは非常に大きな問題である。

そうした中、離職が後を絶たない。採用競争力が弱く、より業務と雇用への不安感が増している。

## 共済難民は出さない！

川原委員（大阪地方本部）

●グループ会社の死亡労災が発生し、重大労災や一歩間違えば重大事故につながる事象が多発傾向にある。特に吹田貨物ターミナル内の貨物列車と器具の接触事象は、思い込みや確認会話の怠りによるものである。先般発生した雪害では、



確保するため、懸命に業務に勤しんだ。また、事故後人社の組合員が半数を超え、改めて事故の悲惨さ・反省を、教訓として伝えていくことが重要となっている。

●近畿統括本部がスタートして4ヶ月が経過した。今後も厳しい経営環境が想定される中、様々な業務改善施策も予定され、3月にはうめきた地下駅の開業、奈良線の複線化により、業務体制の見直しが行われる。

●4月には、統一地方選挙が実施される。JR西労組の組織内議員である田尻匠奈良県議の改選をはじめ、19名の推薦議員の全員当選に向け取り組む。

## 災害対策について真摯な議論を

尾崎委員（福知山地方本部）



●福知山線列車事故の間、福知山線列車事故の備線車事故を教訓に、安全確立に向けた取り組みを行ってきた。ユニオンスタールにおいては、中央本部作成のDVDを活用し、安全を考える講義を設けてきた。

●1月18日、山陽新幹線小倉博多間、久山斜路において作業打合せ中に、トランプ

利用が回復基調となることから、基準昇給の完全実施を行なうべきであり、より深い議論を行っていただきたい。

●昨年より発売の「サイコロ」が、想定を上回る発売となり、現在はエントリーを中止している。昨年、福知山エリアの目的として、「幹部」「東舞鶴」の2箇所となっていたが、ワンマン列

## 事故の自分事化の重要性を再認識

森本委員（新幹線協議会）

●19年2月加太駅でも同様の事象が発生しており、過去の反省と教訓が生かされているのか、改めて自分事化することの重要性を再認識した。

●今年度も、多くの施策について、山陽新幹線統括本部と議論を行なっている。現場で働く組合員は、環境整備をなされるままの施策実施やシステムの取扱いに戸惑い、モチベーションが下がり、働きがいも低下している。解明交渉の中でも、箇所長とのコミュニケーションの充実を強く各主管部に求めている。

## 羽野書記長 総括答弁

（はじめに）

雪害について、会社もどこに問題があったのかを議論していると思うが、我々も各方面から多くの意見を頂いているので、誰が悪いというのではなく組織の大きな課題と捉えて、今後会社と議論をしていきたい。

●安全について、まだ道半ばとは言い、非常に高い数値レベルの日標を達成してきたと認識している。労働災害などが止まり感があるものの、自分たちが対処対応できる事柄への成果は充分評価されていくと考える。

一方、達成目標の数値に目線が寄ってしまったというように感じる。こうなってしまうと、系統間での責任転嫁や持ちは未だ逆転している。

●安全について、まだ道半ばとは言い、非常に高い数値レベルの日標を達成してきたと認識している。労働災害などが止まり感があるものの、自分たちが対処対応できる事柄への成果は充分評価されていくと考える。

●安全について、まだ道半ばとは言い、非常に高い数値レベルの日標を達成してきたと認識している。労働災害などが止まり感があるものの、自分たちが対処対応できる事柄への成果は充分評価されていくと考える。

●安全について、まだ道半ばとは言い、非常に高い数値レベルの日標を達成してきたと認識している。労働災害などが止まり感があるものの、自分たちが対処対応できる事柄への成果は充分評価されていくと考える。

●安全について、まだ道半ばとは言い、非常に高い数値レベルの日標を達成してきたと認識している。労働災害などが止まり感があるものの、自分たちが対処対応できる事柄への成果は充分評価されていくと考える。

## 失ったものは取り返す

社長の言葉  
をそのまま借りると「失ったものを取り返したい」と本心に思っている。そういう思いで春闘に臨みたい。そして、会社に赤字の業績予想となるような要求はできないかもしれないが、今やらないと、本心に人がいなくなる、来なくなるという「ターニングポイント」となる春闘ではないか。会社にも、そういう意味で覚悟をもって春闘に臨んでもらいたいと

●安全について、まだ道半ばとは言い、非常に高い数値レベルの日標を達成してきたと認識している。労働災害などが止まり感があるものの、自分たちが対処対応できる事柄への成果は充分評価されていくと考える。

●安全について、まだ道半ばとは言い、非常に高い数値レベルの日標を達成してきたと認識している。労働災害などが止まり感があるものの、自分たちが対処対応できる事柄への成果は充分評価されていくと考える。

●安全について、まだ道半ばとは言い、非常に高い数値レベルの日標を達成してきたと認識している。労働災害などが止まり感があるものの、自分たちが対処対応できる事柄への成果は充分評価されていくと考える。

●安全について、まだ道半ばとは言い、非常に高い数値レベルの日標を達成してきたと認識している。労働災害などが止まり感があるものの、自分たちが対処対応できる事柄への成果は充分評価されていくと考える。

●安全について、まだ道半ばとは言い、非常に高い数値レベルの日標を達成してきたと認識している。労働災害などが止まり感があるものの、自分たちが対処対応できる事柄への成果は充分評価されていくと考える。

●安全について、まだ道半ばとは言い、非常に高い数値レベルの日標を達成してきたと認識している。労働災害などが止まり感があるものの、自分たちが対処対応できる事柄への成果は充分評価されていくと考える。

●安全について、まだ道半ばとは言い、非常に高い数値レベルの日標を達成してきたと認識している。労働災害などが止まり感があるものの、自分たちが対処対応できる事柄への成果は充分評価されていくと考える。

●安全について、まだ道半ばとは言い、非常に高い数値レベルの日標を達成してきたと認識している。労働災害などが止まり感があるものの、自分たちが対処対応できる事柄への成果は充分評価されていくと考える。

●安全について、まだ道半ばとは言い、非常に高い数値レベルの日標を達成してきたと認識している。労働災害などが止まり感があるものの、自分たちが対処対応できる事柄への成果は充分評価されていくと考える。

●安全について、まだ道半ばとは言い、非常に高い数値レベルの日標を達成してきたと認識している。労働災害などが止まり感があるものの、自分たちが対処対応できる事柄への成果は充分評価されていくと考える。

●安全について、まだ道半ばとは言い、非常に高い数値レベルの日標を達成してきたと認識している。労働災害などが止まり感があるものの、自分たちが対処対応できる事柄への成果は充分評価されていくと考える。

●安全について、まだ道半ばとは言い、非常に高い数値レベルの日標を達成してきたと認識している。労働災害などが止まり感があるものの、自分たちが対処対応できる事柄への成果は充分評価されていくと考える。

●安全について、まだ道半ばとは言い、非常に高い数値レベルの日標を達成してきたと認識している。労働災害などが止まり感があるものの、自分たちが対処対応できる事柄への成果は充分評価されていくと考える。

●安全について、まだ道半ばとは言い、非常に高い数値レベルの日標を達成してきたと認識している。労働災害などが止まり感があるものの、自分たちが対処対応できる事柄への成果は充分評価されていくと考える。

●安全について、まだ道半ばとは言い、非常に高い数値レベルの日標を達成してきたと認識している。労働災害などが止まり感があるものの、自分たちが対処対応できる事柄への成果は充分評価されていくと考える。

●安全について、まだ道半ばとは言い、非常に高い数値レベルの日標を達成してきたと認識している。労働災害などが止まり感があるものの、自分たちが対処対応できる事柄への成果は充分評価されていくと考える。



●安全について、まだ道半ばとは言い、非常に高い数値レベルの日標を達成してきたと認識している。労働災害などが止まり感があるものの、自分たちが対処対応できる事柄への成果は充分評価されていくと考える。

●安全について、まだ道半ばとは言い、非常に高い数値レベルの日標を達成してきたと認識している。労働災害などが止まり感があるものの、自分たちが対処対応できる事柄への成果は充分評価されていくと考える。

●安全について、まだ道半ばとは言い、非常に高い数値レベルの日標を達成してきたと認識している。労働災害などが止まり感があるものの、自分たちが対処対応できる事柄への成果は充分評価されていくと考える。

●安全について、まだ道半ばとは言い、非常に高い数値レベルの日標を達成してきたと認識している。労働災害などが止まり感があるものの、自分たちが対処対応できる事柄への成果は充分評価されていくと考える。

●安全について、まだ道半ばとは言い、非常に高い数値レベルの日標を達成してきたと認識している。労働災害などが止まり感があるものの、自分たちが対処対応できる事柄への成果は充分評価されていくと考える。